

## 平成26年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

単位制で培った一人ひとりの個性を大切にする長吉高校の教育力をさらに向上させ、エンパワメントスクール総合学科の枠組みを活用し、すべての生徒を「地域を支える人材」として育成できる学校づくりをめざす。

## 2 中期的目標

## 1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり

(1) 「わかる授業」づくりをめざした校内体制の強化を図る。

- ア 各授業で中学校までのつまづきを取り除き、基礎・基本の定着に努める。
- イ 授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・構造化・協働化）を進める。
- ウ ICTを活用し、学ぶ楽しさを味わえる「わかる授業」を展開する。
- エ 授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」づくりのための授業改善に取り組み、生徒の基礎学力の向上を図る。  
※生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」を平成28年度には90%にする。(平成25年度74%)

## 2 安心で魅力ある学校づくり

(1) エンパワメントスクール（総合学科）への改編を推進する。

- ア 単位制の課題を改善し、実績のある取組みを推進する。
- イ 教育課程の編成、教務内規の改訂、懲戒規定の見直し等を行う。
- ウ 従来の分掌体制を刷新する。

(2) 生徒の居場所がある学校づくりを通じてのセーフティネットの拡充を図る。

- ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす。「気づきシート」「教科アンケート」を通じて、教員の生徒情報共有を密接に行う。
- イ 「高校生活支援カード」の活用を通じて、様々な背景を抱える生徒を学校全体で受け止め、支援、育成する体制づくりを進める。
- ウ 図書室の活性化を図るとともに、ゆるやかな人間関係の構築を図る。
- エ 魅力ある学校行事への改善を進めるとともに、学校行事への意欲的な参加を図る。
- オ 保健室、カウンセリングルーム、関係機関との連携を利用することで、ピアプレッシャーに弱い生徒の居場所を確保する。
- カ 生徒も一緒に清掃活動を行うことで施設を大切に使用する意識を育てる。保健委員の委員会活動を活発にする。

(3) 出口を保障する学校づくりを推進するための本校独自のキャリア教育の確立を図る。

- ア 外部人材を活用しながら、入学から卒業後の進路を見通したキャリア教育を計画的に推進し、卒業生徒の増加と進路未定者を減少させる。
- イ 参加・体験型の授業実践を工夫し、コミュニケーション能力やプレゼン能力の向上を図り、円滑な人間関係の構築を支援する。
- ウ 問題行動の未然防止に取り組むとともに、社会人としての態度・マナーを育成する。
- エ 実用的な技能・資格の取得者の増加を図る。

(4) 国際理解教育・多文化共生教育を推進する。

- ア 多様化する渡日生の母語保障及び日本語教育を推進する。
- イ 大阪のモデルとなるような多文化共生の学校づくりをめざす。

(5) 高大連携による生徒指導を行う。

- ア 大学等と連携しながら健康診断等の分掌業務の円滑な運営を図る。
- イ 生徒の学習支援、進路支援となるような体制作りをめざす。

## 3 積極的な情報発信

(1) 中学校や地域・保護者への広報活動を強化する。

- ア エンパワメントスクール総合学科への改編を学校説明会やHP等を通じて広報する。
- イ 学校の取組み、生徒のがんばっている姿や様子を学校通信やHP等により発信する。
- ウ 生徒が小・中学校や地域等へ出かけていく取り組み（ボランティア活動等）を進める。

(2) 地域の小学校、中学校との連携を深め、エンパワメントスクールにおける学び直しのモデルを作る。

- ア 近隣の小学校、中学校と、教科指導、生徒指導方法について情報交換し、効果的な学び直しの手法について研究する体制作りをめざす。
- イ 本校の国際的な人材資源を活用し、小中学校と協働して多文化共生の社会づくりを推進する。

## 4 ICT等を活用した校務の効率化と学校力の向上

(1) 校務処理システムやICTの活用を図り、生徒情報の一元管理を実現するとともに、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

(2) 生徒の指導育成についての教員間の協議、調整を促し、学校力を高める。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>エンパワメントスクールへの改編を控え、単位制にかかわる診断項目は削除し、生徒向けに社会で生きる力を育む一環として取り組んでいる「自主的にあいさつをするようになった」等の項目を追加した。</p> <p>【生徒向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回収率や生活面では例年に比較し大きな変化は見られなかった。</li> <li>・「授業はわかりやすい」80%の目標には達しなかった。来年度、学び直しを掲げる本校において「わかる授業づくり」は最重要課題と捉えている。</li> </ul> <p>【保護者向け】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も回答数が少なく全体の意見を反映しているとは言えない状況。</li> </ul>	<p>【第1回】6月7日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃は生徒とのコミュニケーションをとるよい場にもなるので生徒に清掃をさせる。</li> <li>・自分の意見を持ち、発言できるようなコミュニケーション能力を育む授業づくりを。</li> <li>・多様な人が社会を支えていることを長吉なら生徒に伝えられる。長吉を卒業して誇りに思う教育をしてほしい。</li> </ul> <p>【第2回】12月13日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営を経験していない教員も多いので担任研修を実施すべき。</li> <li>・学校改革は大きなチャンス。「魅力ある授業」と「規律」が大切。授業見学を積極的に。</li> <li>・単位制の生徒も大事。多くの生徒を卒業させて進路を実現させてほしい。</li> </ul>

府立長吉高等学校

<p>・「子供を長吉高校に入れて満足している」69%から92%へと上昇した。                  ・4月から改編することについては74%が「わかりやすく伝えている」と回答いただいたが26%への連絡、説明が課題。  <b>【教員向け】</b>                  ・「生徒会、部活動への取組みが重要」との記述が複数教員からあり、今後の取組課題と捉えている。</p>	<p><b>【第3回】2月7日(土)</b>                  ・来た生徒を確実に卒業させる。授業が大事、よりわかりやすい授業、SHRをきっちり。                  ・最初が肝心。生徒が踏みとどまれなくなる要因は先生と生徒の関係。組織的に対応する。                  ・エンパワメントの生徒も大事だが単位制の生徒も大事にすることを忘れない。1人の10歩より10人の1歩、教員の団結が大事。</p>
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基礎・基本の定着と「わかる授業」づくり	<p>(1) イ 授業のユニバーサルデザイン化を進める</p> <p>ウ ICTを活用し「わかる授業」を展開</p> <p>エ 授業研究や公開授業週間を活用し「わかる授業」づくりのための授業改善に取組む</p>	<p>(1) イ 授業の「視覚化・構造化・協働化」を進めるため、研究授業等を行う。</p> <p>ウ ICTの効果的活用事例校の見学を行い情報を集めたり、研究授業等で情報交換を行う。</p> <p>エ イ・ウを推し進めながら、各教員が自己申告票に「わかる授業」づくりのためにどのように工夫するか設定目標を加える。長吉高校版授業観察シートを公開授業等で活用し「わかる授業」づくりを進める。</p>	<p>(1) イ・授業評価PTによる研究授業を前後期の授業公開週間にそれぞれ担当者を変えて実施する。                  ・生徒対象・学校教育自己診断結果における「授業のわかりやすさ」に対して「そう思う」「ややそう思う」併せての回答を80%めざす。【昨年度80%】</p> <p>ウ・先進事例校訪問とその報告会を研究授業と合わせて後期に実施する。</p> <p>エ・イの指標及び授業アンケートを活用するとともに授業観察でも確認する。                  ・授業の出席率60%以上の生徒の単位修得率を5%以上引き上げる【昨年度85.3%】                  ・パッケージ研修を活用し、上記イの指標達成をめざす。</p>	<p>(1) イ・(◎)授業公開週間中に前期は7名、後期は9名が研究授業を実施。                  ・(△)76%で目標達成できず。選択科目の多い中間、卒業年次は80%を超えるが必履修科目の多い入学年次は70%と低かった。                  ウ・(◎)5月に東京の先進事例校を訪問。同時期にITソリューションに教員を派遣。先進事例校の取組報告とタブレット端末活用の研修を行い、校内研修で活用した。さらに、1月にパッケージ研修を活用しタブレット端末とレゴを組合わせた研究授業を実施した。                  エ・(○)自己申告票の目標設定に授業アンケートの活用を取り入れる教員が50名中13名。すべての教員が「授業力」の項目で「わかる授業づくり」をどう工夫するか目標に設定した。                  ・(○)目標達成。87.8%と微増。                  ・(○)斬新な発想によるパッケージ研修は教員の授業への取組意欲を高めた。</p>
2 安心・魅力あふれる学校づくり	<p>(1) エンパワメントスクールへの改編の推進                  ア 単位制の課題の改善と実績ある取組みの推進                  イ 教育課程の編成等                  ウ 分掌体制の刷新</p> <p>(2) ア 「面倒見の良い学校」づくりをめざす</p>	<p>ア 卒業率の向上と中退率の減少に取組むとともに、本校の強みである「多文化共生」系列を中心に据えて改革を推し進める。</p> <p>イ エンパワメントスクールの改編に必要な見直しを行う(教育課程の編成、教務内規の見直し等)。</p> <p>ウ エンパワメントスクールへの改編に合わせて、分掌体制の再構築を行う。</p> <p>(2) ア 個々の生徒・保護者に応じたきめ細かな指導                  ・入学年次は早期に生徒・保護者との面談を行う。                  ・入学年次生の出身中学校との連携を強化する。                  ・チューターによる日々の出欠状況の把握を行う。                  ・長期欠席者や問題行動生徒を中心に早期の電話連絡及び家庭訪問を行い、家庭との連携を図る。                  ・保護者懇談期間等を活用し前期及び後期に出席率の低い生徒に出席を促す指導を行う。                  ・生徒・保護者の相談には丁寧に対応する。                  ・保護者対象の学校教育自己診断における要望に対しては速やかに対応する。</p>	<p>(1) ア・卒業率を前年度より5%引き上げる。【昨年度52.5%】</p> <p>イ・企画室が単位の修得規定を前期中に改定をめざす。</p> <p>ウ・4～5室体制への移行を前期中に行い、運営委員会を中心に後期中に移行体制を整える</p> <p>(2) ア・5月早々に懇談期間を設け、出席率の低い生徒を中心に三者懇談を行う。懇談ができなかった対象生徒については全教員で家庭訪問を行う。                  ・年間10回以上出席状況、成績等を封入し家庭連絡を行う。                  ・「先生は悩みや相談にいていねいに応じてくれる」(生徒用)の項目を70%以上にする【昨年度61%】                  ・「チューター等に相談しやすい」(保護者用)の項目を60%以上にする【昨年度51%】                  ・企画室で前期中に修学指導の内容を固める</p>	<p>(1) ア・(△)50%、目標達成できず。単位制生徒の授業への出席率を向上させる具体的取組みが不足。来年度、具体的取組みが必要。                  イ・(○)9月に改訂</p> <p>ウ・(△)全面的な分掌再編は来年度の状況を見て実施。今年度は企画室と広報部を総務部に再編したのみ。</p> <p>(2) ア・(○)5月だけでなく6月、7月にも三者懇談を行い授業への出席を促す。懇談で効果の見えない生徒には家庭訪問を実施。後期に入り学校生活に定着しだした生徒には「ジャンプアップ賞」を出す等取組みを実施。1月末家庭訪問件数95件。                  ・(○)年間11回発送。                  ・(○)70%で目標達成                  ・(◎)88%で目標達成                  三者懇談を5月にも実施し、相談機会を増やした。                  ・(○)9月に履修、修得規定、追認規定、留年規定、卒業規定を定めた。</p>

府立長吉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>ウ 図書室の充実</p> <p>カ 生徒とともに清掃活動</p> <p>(3) ア 外部人材を活用しながらキャリア教育を計画的に活用し、卒業生徒の増加と進路未定者の減少させる</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力の向上を図る</p> <p>ウ 社会人としての態度・マナーの育成</p> <p>(4) イ これからの大阪における多文化共生社会モデルの創造</p>	<p>ウ ・本校生に読ませたい図書の充実を図るとともに、生徒が図書室に来たくなるような工夫を行う。</p> <p>カ ・毎時間の授業を受ける環境整備に努める。</p> <p>・週1回ホームルームの時間を活用して生徒とともに教室の清掃活動を行う。</p> <p>(3) ア ・エンパワメント総合学科改編を踏まえ、ガイダンス部による3年間を見通したキャリア支援計画を作成し、各年次における指導のテーマと達成目標を明確にする。</p> <p>・インターンシップ応募開始時期を早め応募期間を昨年度より長くする。</p> <p>・それぞれの取組み内容を体系的に整理のうえ提示し、全教職員の共通理解を図る。</p> <p>イ ・長吉高校における教育活動全体を通じて、生徒のコミュニケーション能力、プレゼン能力を伸ばす。</p> <p>ウ ・生徒が自主的にあいさつやお礼を言うように、教職員から生徒へのあいさつ等の声かけを行う。</p> <p>(4) イ ・外国にルーツのある生徒と日本人の生徒との交流の機会を増やす取組みを行う。</p> <p>・多文化研究会生徒が日本人生徒に部行事への参加を呼びかける「全員呼びかけ運動」を実施し、日本人生徒の参加も推進する</p> <p>・多文化理解講座への日本人生徒の保護者参加を増やす取組みを広報部と連携して推進するとともに、保護者懇談等を利用して広報する。</p> <p>・1年間を見通した実施計画に基づき多文化研究会の生徒全員がゲストティーチャーに参加する機会を作る。</p>	<p>ウ ・図書室の利用者を5%増やす。 【昨年度8292名】</p> <p>カ ・授業始まりと授業後の教室整備について申し合わせを徹底する。</p> <p>・LHR終了後チューターが生徒に呼びかけ教室の掃除をする。</p> <p>(3) ア ・就職内定率を5%上昇させる 【昨年度3月末85.7%】</p> <p>・インターンシップ参加者30名以上【昨年度21名】</p> <p>・26年度末の進路未定率を23年度と比較し半分以下にする【23年度46.3%】</p> <p>イ 生徒対象・学校教育自己診断に「私は長吉高校に入学して、自分の考えや意見を伝える力がついたと思う」の項目を追加し60%以上をめざす</p> <p>ウ ・生徒対象・学校教育自己診断に「自主的にあいさつやお礼を言うようになった」という項目を追加し、50%をめざす。</p> <p>イ ・生徒対象・学校教育自己診断における「長吉高校は多文化共生が進んでいる」80%以上を維持する。 【昨年度82%】</p> <p>・校内WaiWaiトーク、多文化理解講座への日本人生徒の参加を実現する。</p> <p>・多文化理解講座への日本人保護者の参加を促進し、保護者用学校教育自己診断にも「長吉高校は多文化共生が進んでいる」項目を入れ、60%以上をめざす。</p> <p>・ゲストティーチャーに多文化研究会の生徒の80%以上が参加できるようにする【昨年度53%】</p>	<p>ウ ・(◎)9380人 図書委員による図書室運営を行い、生徒の図書室への関心を一層高めた。</p> <p>カ ・(○)年度初めの教員ミーティングで授業始まり、終わりの教室整備について申し合わせを周知確認した。チョークを教室へ残さない等徹底した。</p> <p>・(○)グループによってばらつきはあるが、チューターが積極的に生徒に働きかけ掃除をさせた。</p> <p>(3) ア ・(△)86.8%。</p> <p>・(△)参加者21名 中間年次生徒の参加が7名と少なかった。</p> <p>・(○)現在31%だが最終的に25%になる見込み。</p> <p>イ ・(○)60%で目標達成。 組織的に各教科でプレゼンを授業で取入れた。</p> <p>ウ ・(◎)76%で目標達成 朝の校門挨拶に自主的に多くの教員が参加するなど普段からの声かけが効果をあげた。</p> <p>(4) イ ・(○)83%で目標達成。 130人を越える外国ルーツの生徒が各グループにるのが要因。</p> <p>・(△)多文化研究会の生徒の指導に時間がかかり日本人生徒への呼びかけができなかった。</p> <p>・(◎)89%で目標達成。</p> <p>・(△)56%で目標達成できなかった。出席状況が良好な生徒しか参加させなかったため(出席が良好な生徒は全員参加した)。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 積極的な情報発信</p>	<p>(1) 中学校等へ広報を強化する ア エンパワメントスクールへの改編に係る広報活動</p> <p>イ 学校の取組みや生徒の様子をHP等で発信する</p> <p>ウ 小・中学校や地域等へ出かけていく取組みを進める</p> <p>(2) 地域の小中学校との協働推進</p>	<p>(1) ア ・エンパワメントスクール総合学科への改編によって、具体的にどのように変わったのか(教育課程等)について学校説明会等を通じて丁寧に広報する。</p> <p>イ ・生徒の頑張っている様子等について、学校通信やHP等を通じて発信する。</p> <p>ウ ・地域清掃などのボランティア活動や出前授業、ゲストティーチャー等、地域へでかける取組みを進める。</p> <p>(2) ア ・地域の小中学校との授業研究、生徒指導研究等について情報交換し、学校連携を継続的に行う体制を構築する。</p> <p>イ ・地元の小中学校と協働し、地域の多文化共生を推進する取組みを行う</p>	<p>(1) ア ・学校説明会を数多く開催するとともに、中学校や塾等を訪問してできる限り丁寧に説明する。</p> <p>イ ・長吉高校通信を発行して中学校訪問で配布する。 ・広報委員を10名以上育てる。 ・生徒・保護者の立場からHPをリニューアルする。</p> <p>ウ ・生徒対象・学校教育自己診断に「ボランティア活動に参加した」の項目を追加し、50%をめざす。 ・学校協議会で保護者・地域から意見を聞く。</p> <p>(2) ア ・企画室を中心に地域の小中学校と連携し地域に根ざした長吉高校の具体化を図る。</p> <p>イ ・多文化理解講座を小中学校等と連携して開催する。 ・地域の小中学校の地域行事に本校から3回参加することをめざす。</p>	<p>(1) ア ・(◎)外部説明会10回 校内説明会4回、中学校訪問211校行い、400名を超える志願者があった。</p> <p>イ ・(△)中学校訪問に重点を置いたため、通信の発行はできなかった。</p> <p>・(◎)生徒を通じて口コミで声をかけ45名の広報委員が集まり、説明会に協力してくれた。</p> <p>・(◎)9月にリニューアルし、スマートフォンからもアクセスできるように工夫した。</p> <p>ウ ・(△)33%で目標達成できなかった。</p> <p>・(○)第1回にいただいた意見「生徒に清掃をさせる」とボランティア活動の取組みを組み合わせ、学校内外の清掃に係る生徒の活動を広げた。</p> <p>(2) ア ・(△)話し合いを始め、地域の小中学校への授業参観を要望したが、実現できなかった。</p> <p>イ ・(△)日程等がうまく調整できず、開催できなかった。</p> <p>・(○)国際理解教育の総合的な学習に時間にゲストティーチャーとして5校訪問した。</p>

## 府立長吉高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 した校務の効率化 ICTを活用</p>	<p>(1) ICT等の活用により、教職員の事務作業時間を軽減する</p> <p>(2) 生徒の指導育成についての教員間の協議、調整を促し、学校力を高める。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 校務処理システムやICT等の活用により、生徒情報の一元管理を図る。また、このことにより、教職員の事務作業を軽減し、生徒に向き合う時間を確保する</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 教科会議、各委員会における教員間の協議、調整の経過報告を求め、分掌間、教科間の協議、調整力を高める。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 校務処理システム等を活用し、指導要録や通知票等を作成する時間の短縮を図る。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校運営体制を図式化し、業務及び責任の所在を明確にする。</li> <li>• 各分掌、各年次は業務の確認、見直しを行い年度末には次年度に向けての取組みをまとめ、学校経営計画に反映させる。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (○)指導要録については3年次を除いてできている。通知表は全年次作成できている。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (△)分掌再編を行う予定であったが、総務部の創設だけで終わった。</li> <li>• (△)各分掌等は今年度の取組みと課題、来年度に向けての取組みポイントをまとめたが、少し時期が遅れた。</li> </ul>
--	--	--	--	---